

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(1) 歯科医の訪問歯科診療の実施状況

平成30年度 第1回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>1. 訪問歯科診療の対応表：平成30年7月版を準備中 ⇒ 配布箇所、方法、訪問歯科診療にどのようにつなげていくかが課題である。</p> <p>2. 対応表と各医院のホームページ、歯科医師会ホームページの医院情報については、チェック、確認し順次修正。</p> <p>3. 衛生士会との連携やフリーの歯科衛生士の発掘、専門的な口腔ケアができ、施設職員や家族に指導できるような人材の養成に取り組む。人材養成は難しいが、衛生士会と定期的に会議をもち、情報交換、研修会、情報の共有、個々のレベルアップ、連携を行う。 ⇒ 歯科医師会は、小牧市。衛生士会は尾張北部と活動拠点が異なるため、小牧市内で活動できる衛生士が少ないなど連携が難しい状況にある。</p> <p>4. 将来的には、歯科衛生士がいない歯科医院の派遣依頼にも対応できるよう人材バンクのようなものを整備できるとよい。人材バンクは理想であるが、断念</p> <p>5. 介護施設職員への口腔ケア等、研修機会の希望の有無の確認を行う。</p> <p>6. 訪問診療ニーズの把握をする必要があると考えており、調査を検討している。 ⇒ ニーズの把握方法に課題</p>	<p>【高木委員】</p> <p>1. 対応表：平成30年7月版を作成 ・10月中旬 介護事業者連絡会を通じて配布 ・医師会、薬剤師会へ配布依頼 ・関係機関へ配布</p> <p>2. 順次修正中</p> <p>3. 衛生士会との会議は日程調整中 ・研修会等の情報は随時連絡 ・小牧市内で活動できる衛生士を確認中</p> <p>5. 10月中旬アンケートを配布、回収中(19件)</p>	<p>【高木委員】</p> <p>・対応表を利用した診療依頼も少しずつ増えているので、より正確な情報を提供できるようにする。 ・配布箇所を精査する。</p> <p>・衛生士会の会員でも医療機関勤めの衛生士では、活動に制約があるため、フリーの衛生士を発掘していきたい。</p> <p>・回収数が少ないので、提出協力をいただけるとありがたい。</p>	<p>高木委員</p>

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(2) 薬剤師の訪問薬剤管理指導の実施状況

平成30年度 第1回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>アンケートの結果は、市や包括、保健センターなどに設置して活用していただきたい。</p> <p>49 保険薬局のうち 40 薬局は在宅患者訪問薬剤管理指導の届出を出している。実際に在宅の受入れができる薬局は 16 薬局で、このうち 24 時間対応できる薬局は 8 薬局である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有志による在宅医療介護連携委員会を開催。全 9 薬局が参加し、在宅の受入れ体制について協議した。 ・無菌室保有薬局は、メンバーにおらず、検討課題である。 ・麻薬については、緊急時のための小売業者間の譲渡申請について協議した。 <p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員の資質の向上 ・比較的安定した患者様からでも良いので、会員の在宅経験の積み上げが必要である。 ・無菌保有薬局との連携 ・介護事業所等との連携強化 	<p>【浅井（宏）委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅に対し、積極派と消極派に 2 極化している。在宅ニーズの存在をリアルタイムに知ることができていないため、積極的にやりたいと言っている薬局へのコンサルも出来ていない。 ・12月に在宅医療介護連携委員会を開催予定 	<p>【浅井（宏）委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規在宅のニーズを受けられる体制の構築が課題 	<p>浅井 (宏) 委員</p>

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(3) 各介護保険サービス事業所についての情報共有

平成30年度 第1回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>【伊藤（里）委員】</p> <p>6/17 こまき介護展を実施。今年は来場者が350名を超えることができた。</p> <p>市民へ介護保険制度をアピールするための企画だが、事業者間相互のネットワークの強化と情報交換の場となっている。</p> <p>⇒</p> <p>サービス事業者同士で医療対応や、看取り・困難事例等の情報共有を行うことができていない。</p> <p>成功事例の共有や意見交換する場なども必要と思われる。</p>	<p>【伊藤（里）委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月、各事業所部会が研修を企画している。研修は事業種にこだわらず参加を呼びかけており、多職種が一堂に会して学習する機会となっている。 ・研修テーマも「感染症管理」や「コグニサイズ・認知症予防レクリエーション」等、医療と介護の連携を意識したものも実施している。今後の研修も各部会で企画検討し、専門職ネットワークの強化をめざしていく。 <p>【尾崎委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内居宅介護支援事業所が5グループに分かれて、3か月に1度の頻度で事例検討会を行っている。各グループの中に、いずれかの包括が参加し、ケアマネジャーとの情報共有、連携を図る機会を作っている。 ・包括で圏域内の介護保険サービス事業所との交流会を企画している所もある。今後は、包括全体で事業所や専門職間の交流や情報交換の場が企画できるようにしていきたい。 	<p>【伊藤（里）委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡会で行う研修は、情報共有や知識を学ぶ場としては効果があると思われるが、より実務的な「連携」関係を築けるよう困難ケースの事例検討なども取り組んでいく。 <p>【尾崎委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有の場を企画する際、昼間の時間帯では業務との兼ね合いで参加しにくい所もあるため、開催方法や内容を事業所の意見も取り入れながら検討する必要がある。各事業所にとって負担を掛けないように配慮が必要。 	<p>伊藤（里）委員 尾崎委員</p>

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(4) 医療・介護資源の情報収集・管理 **新**

概要	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>医療機関の在宅診療・往診等の実施状況について情報収集を行い、医療・介護関係機関に情報提供を行う。</p> <p>関係機関の協力のもと、こまきつながるくん連絡帳において、医療・介護資源の情報を集約し、リスト化・マップ化する。</p>	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規開業クリニック（2箇所）を訪問し情報収集した。 ・平成 28 年度に実施したアンケート結果に基づくものであるが、在宅診療・往診等の実施状況に関する情報については、市ホームページ等で公表している。 <p>【江口委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護資源の情報については、医療・介護関係者、市民に対し必要な情報を提供するため、こまきつながるくん連絡帳にリスト・マップを構築するよう、業者と調整をしている。 ・また、紙媒体で作成していたケアマネジャー等の医師との連絡調整に必要な情報を取りまとめた「医師とケアマネ一覧」に掲載している内容について、こまきつながるくん連絡帳に機能の追加するよう調整している。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問したクリニックからは、訪問診療・往診等に関して、肯定的な意見をいただくことが出来なかった。そのため、在宅医療・介護に関する情報提供や研修・勉強会を通じた協力依頼をする必要がある。 ・アンケートを実施したのが、平成 28 年度であることから、最新の情報に更新していく必要がある。 <p>【江口委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護関係者と市民向けに公表する内容を分けることを想定しており（医療・介護関係者向けの情報は、こまきつながるくん連絡帳に登録しないと見ることができない）、登録事業者数を増やしていく必要がある。 ・小牧市医師会のご協力のもと、医療機関の診療時間、相談可能な手段、時間帯などについて、最新の情報を各医療機関に聞き取りをする必要がある。 	<p>磯村委員 江口委員</p>

(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

(1) 医療・介護の関係団体との連携 **新**

概要	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>地域包括支援センターが実施する地域ケア会議や在宅医療・介護を受けている方のサービス担当者会議などを通して課題を把握するとともに、連携の強化に向けた対応策の検討を行う。</p>	<p>【磯村委員】 ・サポートセンターは地域ケア会議への参加はまだできていない。 ・個別で訪問などを実施する中で、いくつかの地域包括支援センター、医療・介護事業者などと協議はしているが、定期的な情報交換等をする機会を設けていない。</p> <p>【尾崎委員】 ・地域ケア個別会議では、主に「認知症、独居、災害時対応、健康管理＝安否確認」がテーマになることが多いが、「ターミナル期」の見守り体制についても話題となっている。 ・今後も、“独居でも、自宅で最期を迎えたい”という方は増えてくることが予想される。実際、担当者会議でも、そのための体制作りにつれる機会が増えている。 ・ケアマネジャーには、介護保険サービスにはない見守り体制（ネットワーク）作りのためにも、地域ケア個別会議を活用してもらえるように、事例検討会や担当者会議でも継続して働きかけ、提案していきたい。</p>	<p>【磯村委員】 ・サポートセンターの役割などを明確化し、地域包括支援センターや医療・介護事業者に対して示す中で、必要に応じ、地域ケア会議やサービス担当者会議に参加できるようにしていく必要がある。 ・そのためにも、地域包括支援センターや医療・介護事業者との情報交換や、連絡調整を行う機会を設けていく必要がある。</p> <p>【尾崎委員】 ・ケアマネジャーには、地域ケア個別会議を支援ツールのひとつとして、取り入れてもらえるように、その有効性を体感してもらえるように、包括支援センターの直プランからだけでなく委託先のケースを基に開催できるようにする。</p>	<p>磯村委員 尾崎委員</p>

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

(1) 医療機関と訪問看護・ケアマネジャーの連携 **新**

概要	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>多様な在宅医療ニーズに対応するため、在宅医療機関、訪問看護・ケアマネジャーなどの連携を強化する。</p>	<p>【磯村委員】 ・医療と介護の連携のために、主任介護支援専門員で立ち上げた研修企画に参加させていただき他職種を知ることが出来た。今後、ニーズにあった「医療・介護勉強会」を開催することにより、お互いの理解を深め、連携を強化したい。</p> <p>【大野委員】 ・昨年度はケアマネジャーを軸に、病院、薬剤師、訪問看護師と情報交換会を行ったが、ケアマネジャーから研修過多との意見があり、平成 30 年度は開催していない。 ・昨年度のアンケート結果では、「互いの役割がよくわかった」、「連携が取りやすくなった」と高評価であり、今後も顔の見える関係づくりを進めるためにも多職種の情報交換会は必要だと思われる。 ・今年度は市主催の多職種連携事例検討会のみが、相互の連携を考える機会となっている。</p>	<p>【磯村委員】 ・本協議会において、委員より、在宅医療・介護の推進に向けては、訪問看護とケアマネジャーの連携強化が必要であるとの意見も寄せられていることから、両者の連携を結びつけるため、勉強会だけではなく、サポートセンターとして取り組む必要があると考える。</p> <p>【大野委員】 ・多職種連携の情報交換会や合同の研修会を行うためには、それぞれに負荷がかからないよう調整を行う。 ・特に、訪問看護とケアマネジャーの連携は重要であり、今後、医療・介護連携チームの中核として位置付けていくためにも、より顔の見える関係づくりをしていきたい。</p>	<p>磯村委員 大野委員 岡委員</p>

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

(2) 副科受診の支援 **新**

概要	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
副科紹介マニュアルを踏まえ、必要な医療機関の紹介を行う。 また、副科（耳鼻咽喉科・眼科）の対象科拡大に向け検討を行う。	【磯村委員】 ・副科紹介ツールを活用し30年4月からは耳鼻咽喉科（3件）眼科（1件）を紹介をした。 ・副科の対象拡大に向けては、10月には今後の検討として精神科へ1件、ツールを活用し、対応した。	【磯村委員】 ・副科拡大に向けては、今後、対象科の選定を含めて、関係機関と調整していく必要がある。	磯村委員

(3) 摂食嚥下サポートチームの活動支援 **新**

概要	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
多職種の専門職で構成された「小牧摂食嚥下サポートチーム」～小牧ごっくんサポート～について、活動支援を行う。	【磯村委員】 ・小牧ごっくんサポートチームは現在新たに専門職に参加を依頼し、25名（16の専門職）になった。 ・10月23日に「在宅医療・介護勉強会」で勉強会を開催し73名参加があった。 ・今後、施設、事業所に向けて「出張勉強会」を開催する。当面サポートセンターが窓口となって開催依頼の調整を支援する。会議は定期開催している。	【磯村委員】 ・チームが構成されたものの、具体的な活動展開に向けては、それぞれ通常業務を抱えた中での活動であることから、課題が多い。 ・出張勉強会についても、対象施設の選定や、講師役となる人員の確保が課題であると考え。	磯村委員

(工) 地域の医療・介護関係者の情報共有の支援

(1) 病院とケアマネジャーの連携

平成30年度 第1回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>【田中委員】</p> <p>6月7日：医療と介護の連携シートの活用状況について意見交換を行い、それぞれの役割について確認をした。</p> <p>⇒</p> <p>連携シートの使い方について周知が不十分。マニュアルを作成し、手順の周知を図る必要がある。ICTの活用がなかなか進んでおらず、実用レベルまでの底上げが必要。</p>	<p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護連携シートについては、昨年度は研修を開催したが、今年度は開催していない。そのため、連携シートの活用状況はそれぞれの機関でわからない。 ・ケアマネジャーの活用は個々に任せているため、現状の活用状況について調査を行い、病院側の情報と共有を図り利用促進に努めたい。 	<p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーの実務の上で入院時情報連携加算や退院・退所加算が設定されているが、20～25%しか加算をとっていないというデータがある。低迷する原因は事務的な手間ということが大きく、今後は手続きをマニュアル化するなど効率的に業務が進められるようにすることも必要である。 	<p>田中委員</p>
<p>平成29年4月から平成30年3月まで160件の連携シートが活用された。</p> <p>また、患者の状況に応じて、看護要約を添付するなどしている。</p> <p>患者が転院した場合には、当院の情報を加えず、一旦、ケアマネジャーに返却している。</p> <p>⇒</p> <p>患者が転院する場合など、連携シートを転院先の医療機関へ引き継いで送る話が過去にはあったようであるが、個人情報の取扱いについて本人の同意が得られていないなどの理由から転院時には活用されていない。</p> <p>市内外から様々な様式の連携シートが提出されているが、近隣市町村において様式の統一化を図った方がいいのではないかと考えている。</p>	<p>【三谷委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年4月から10月までの7ヶ月で、120件の連携シートが活用された。（うち、市内103件、市外10件） ・様式の異なる連携シートも提出されているが、当院では、問題なく活用されている。 ・連携シートにとどまらず、患者の思いをどのようにつなげていくか、患者・家族を交えたところで行えるかという点について、 ・当院では、今後、退院前、退院後訪問を積極的に進めていき、在宅につなげていこうと考えている。 	<p>【三谷委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携する上では、患者・家族を含め、互いに理解できる共通言語が必要である。退院調整会議等でも分かりやすい言語を用いることをスタッフ全員に周知することが課題と考える。 ・また、今後、ACPを進めていくにあたり、連携シートに記載しきれない患者の思いをどのように伝えていくかを考えていく必要がある。 	<p>三谷委員</p>

(工) 地域の医療・介護関係者の情報共有の支援

(2) ICTの運用(機能強化) **新**

平成30年度 第1回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>・活用促進に向けた出張 説明 35 か所 ・登録施設数： 93 か所 ・登録患者数： 27 名 ※H30.6.18 時点</p> <p>・患者情報の共有だけではなく、「つながるくん」の活 用の可能性を高めるべく、会議、専門職間の連 携ツールとして活用を促進 例) ・小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター会議 メンバー：開催通知、議事録、情報共有 ・小牧市認知症初期集中支援チーム：情報共有 ・地域支え合い推進員を中心とした専門機関(専 門職)：サロンでの巡回相談結果の共有化 ⇒ 引き続き、関係機関の協力のもと、登録率の上 昇を目指す。 また、患者情報の共有以外の活用方法などに ついても、周知するとともに、患者情報の共有に 向けて、1事例でも多く事例を積み重ね、未利用 者等に対して、利用のメリットなどを伝える中 で、普及させていく必要がある。</p>	<p>【江口委員】</p> <p>・活用促進に向けた出張 説明：36 か所 ・登録施設数：102 か所 ・登録患者数：62 名 ※H30.10.11 時点</p> <p>・会議、専門職間の連携ツールとしての活用が 広がってきている。</p> <p>・認知症初期集中支援チームと地域包括支援 センターとの患者情報の共有が開始された。 (患者数2件)</p> <p>・医療・介護情報の提供、会議案内や在宅医 療・介護に関する取り組み状況の報告など、「 つながるくん」の活用方法や付加価値を高め るため、検討をしている。</p> <p>= 介護支援専門員連絡協議会からの提案 = ケアマネジャーによって連携シートやつな がるくんを活用する意識に差がある。 繰り返し啓発するとともに、研修案内など つながるくんを利用するなど、意図的に活 用を促していきたいと考えている。 使用にあたって、行政の協力を願いたい。</p>	<p>【江口委員】</p> <p>・着実に、登録施設数及び登録患者数が 伸びてきている状況であることから、利 用者には、有効な手段になりつつあると 認識している。 ・今後、さらに利用者や患者数を増やす ため、未利用者等に対し、利用のメリ ットなどの伝え方が課題である。</p>	<p>江口委員</p>

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(1) 在宅医療・介護連携サポートセンターの運営 **新**

概要	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
医療機関、介護事業者、地域包括支援センター、市民などからの相談を受け、対応する。(相談窓口の強化)	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談窓口対応を継続し、平成30年4月から11月までに、30件の問い合わせや相談があった。 <p>【問合せ内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> 病院、医療機関：11件 地域包括支援センター：6件 介護事業者：5件 市民：6件 薬局：2件 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 左記のとおり、問い合わせ件数が少ない状況であることから、関係事業所や市民に対し、サポートセンターの相談窓口としての機能を普及啓発していく必要がある。 	磯村委員

(2) 在宅医療・介護連携サポートセンターと地域包括支援センターの連携 **新**

概要	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
在宅医療・介護に関する相談体制の強化に向けて、在宅医療・介護連携サポートセンター、地域包括支援センターの連携を図る。	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度から、医療に加えて、介護も担当することになり、更なる連携強化が必要と考えているが、具体的な取組みは出来ていない状況である。 <p>【尾崎委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> サポートセンター会議では、サポートセンターが中心となり医療や介護の各機関と顔合わせができ情報交換の場としても活用できている。 サポートセンターが企画している研修会の場も有効に活用できている。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> サポートセンターの役割などを明確化し、地域包括支援センターに示したうえで、情報交換や、連絡調整を行う機会を設けていく必要がある。 <p>【尾崎委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅医療・介護連携サポートセンターと包括との定期的な情報交換等の場を設定できるかという点ではないか。 	磯村委員 尾崎委員

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(3) アウトリーチ型の相談体制の充実 **新**

概要	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>・専門職が連携する中で、地域の身近な居場所：サロンの巡回相談（H30年度は、モデル事業：西部・北里圏域で実施）を開始した。その状況をつながるくんを使って情報共有する。</p> <p>・地域包括支援センターが交代で、小牧第一病院において出張相談を実施。小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター職員も同席し、相談会を実施する。</p>	<p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている巡回相談では、事前周知をしっかりと行うことで、相談件数も増え、相談内容も濃いものが寄せられてきている。 ・当初は関わる専門職が所属の事業所の枠を超えることができなかったが、少しずつ生活上の相談に応じる福祉専門職としての関わりができるようになり、相談を受けてから専門窓口へつなぐことができるようになってきた。 ・次年度は住民の身近な相談窓口として全サロンへの展開を進めたい。 <p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小牧第一病院での相談会は平成30年6月で一旦終了となった。再開時期については未定である。 ・小牧市社会福祉協議会が主体となってモデル的に実施しているサロン巡回相談に、市の保健師に同行させて頂き、サポートセンターの啓発活動を行っている。 	<p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロン巡回相談を全サロンへ展開するためには、さらに多くの専門職が関わることになるため、相談員の支援体制を強化し、解決に向けたコーディネートを果たせるように支援する。 ・また、市民に身近な相談窓口として周知を図る。 <p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西部地区のサロンに参加した際に、在宅医療・介護に関するパンフレットを手渡すとともに、サポートセンターのチラシを配布したが、「知らなかった」という市民の方が多数あり、サポートセンターの周知が必要であると考えます。 	<p>田中委員 磯村委員 尾崎委員</p>

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(3) アウトリーチ型の相談体制の充実 **新**

概要	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>・専門職が連携する中で、地域の身近な居場所：サロンの巡回相談（H30年度は、モデル事業：西部・北里圏域で実施）を開始した。その状況をつながるくんを使って情報共有する。</p> <p>・地域包括支援センターが交代で、小牧第一病院において出張相談を実施。小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター職員も同席し、相談会を実施する。</p>	<p>【尾崎委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンの巡回相談では、事前にチラシを回覧したことで、専門職がサロンに巡回してくることが少しずつ周知されてきた様子。 ・各サロンで、数件ずつの相談が入っている。現在、20件弱の相談があり、内容により適切な機関へとつないでいる。 ・サロンを運営している側も、気になることを抱え込まずに巡回相談の機会を待つようなこともできてきているのではないか。 ・今後は、各担当圏域でも、同様の動きができればサロンについての付加価値が上がるのではないか。 	<p>【尾崎委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なサロン巡回に、包括職員が半日単位で席を外すことが厳しい状況になることもある。全市展開に向けて、専門職の数を増やせるといいのではないか。 ・市民がより目に付く場所でのアウトリーチが展開できることで、より身近な相談場所が充実するのではないか。 	<p>田中委員 磯村委員 尾崎委員</p>

(カ) 医療・介護関係者の研修

(1) 多職種連携研修の実施

平成30年度 第1回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>・在宅医療・介護連携に関する各種研修会及び勉強会の集約化</p> <p>・第1回「在宅医療・介護勉強会」～くらしを支えるフットケア～を5月9日に開催。 37名（うち医師5名）参加</p> <p>・第2回「在宅医療介護勉強会」テーマ～慢性呼吸器疾患看護のセルフケア支援～を医療介護関係者を対象に開催する。 上記を含め、年5回予定している。</p> <p>⇒ 日程や内容などを含め、参加しやすい研修会、勉強会とするため、関係機関と情報共有が必要である。</p>	<p>【磯村委員】</p> <p>・在宅医療・介護連携に関する各種研修会・勉強会について</p> <p>・第2回「慢性呼吸器疾患看護のセルフケア支援参加者51名（内医師4名）</p> <p>・第3回「小牧ごっくんサポートチームの地域連携にむけて」参加者73名（内医師4名）であった。今後、第4回「リハビリの基礎から在宅まで」、第5回「フィジカルアセスメント」を予定している。今後の内容については連携する多職種からのニーズによって決めることが望ましいと思われる。</p> <p>・多職種連携研修については、第1回「通所系サービスの今後をみんなで考える～終末期の方の対応はどうしていますか？～」を開催。参加者121名。第2回目を平成31年1月24日開催予定。</p>	<p>【磯村委員】</p> <p>・サポートセンター会議での意見や日頃、連携している専門職の方のニーズを聞き取る中で、それぞれのスキルアップや連携を強化できるような研修会、勉強会を開催していく必要がある。</p>	<p>磯村委員</p>
<p>・2か月に1回の定期部会を開催し、事業者連絡会や外部委員会での情報を共有しているとともに、訪問看護における問題点や課題などを話し合っている。</p> <p>・10月17日（水）看護部会として「在宅療養における感染予防(仮)」の研修会を予定している。</p> <p>⇒ 訪問看護における問題点や課題を発掘しても、適切かつ迅速に解決策を見出すための検討時間が現状では持てない。</p>	<p>【岡委員】</p> <p>・10月17日（水）看護部会研修会として、小牧市ふれあいセンターにおいて、「冬の感染対策～インフルエンザやノロウイルスの感染対策と吐物処理の実技～」を小牧市民病院感染認定看護師を講師として招へいし開催した。 （97名の介護・福祉職の方が参加）</p> <p>・これからの季節に起こりえる感染対策の研修は、実技を取り入れ行われたことで分かりやすく、現場での対処方法の一助になったと思われる。</p> <p>・今年度の研修会等の予定はないが、他部会からの要請があれば協力していく方針である。</p>	<p>【岡委員】</p> <p>・看護師が実施する研修会は、日常、看護・介護・福祉に携わる方々がケアの中で困っていることを抽出し、その事例に対し、分かりやすく説明していく必要がある。また、解決策においても、科学的根拠をもった対処方法の伝達も必要と考える。</p>	<p>岡委員</p>

(カ) 医療・介護関係者の研修

(1) 多職種連携研修の実施

平成30年度 第1回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>・平成30年度は医療と介護の職種間の情報交換会の予定はなし。</p> <p>・市の事例検討会や、市民病院や在宅医療・介護連携サポートセンター主催の研修を周知し、個々で参加する。</p> <p>⇒ 研修過多な声も出ているが、ケアマネジャーや訪問看護が必要な研修を取捨選択してもらうようにする。</p>	<p>※ (ウ) - (1) と同じ</p>		<p>大野委員</p>
<p>・地域包括支援センターにも、今年度の研修計画について、内容や日時等の問い合わせがあるが、はっきり伝えられるものがない。</p> <p>・今後の予定としては、研修が決まり次第、なるべく早めに伝えようとする流れはある。</p> <p>⇒ 本来であれば、年度末に来年度の予定が決定し、各関係者に伝えられると良い。そのためには、次年度の研修計画を秋頃から検討していけるとよいのではないか。</p>	<p>【尾崎委員】</p> <p>・地域包括支援センターの各部会においても、事業を計画する時に、他の機関が行う研修内容や研修時期を意識して重複しないように工夫している。</p> <p>・来年度の研修計画についても、今年度中には確定しておきたい。</p>	<p>【尾崎委員】</p> <p>・5者連絡会で、様々な機関が、次年度の研修に向けて調整を図るが、その内容をつながるくん連絡帳で情報を共有できるといい。</p>	<p>尾崎委員</p>

(カ) 医療・介護関係者の研修

(2) 在宅医療・介護の連携研修、勉強会等の実施

平成30年度 第1回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>・包括、ケアマネ連協、サービス事業者連絡会、在宅医療・介護連携サポートセンター・行政の5者で市内の研修調整を行っている。</p> <p>⇒ 医療・介護関連の研修計画はサポートセンターのホームページに掲載してはどうか。</p>	<p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、行っている5者連絡会ではケアマネジャーに関する研修の日程調整を行うとともに、相互の情報交換を行っている。 ・今後も課題を共有し、研修テーマについて話し合い効率的・効果的な研修の実施を図りたい。 ・研修計画はケアマネ連協のホームページに掲載中。 	<p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5者で調整した研修とは別に、様々な機関で研修が企画されている。一時はケアマネジャーや訪問看護から「研修が多い」との声が上がったが、各自で取舍選択してもらうよう呼びかけをしている。 ・サポートセンターのホームページの作成が必要。 	<p>田中委員</p>
<p>・小牧市リハビリテーション連絡会 介護支援専門員向け講演（2月14日）</p>	<p>【大橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「身体に係る圧の影響と対策」をテーマに、モルテンによる勉強会を8月29日に開催 ・ケアマネカレッジで、「効果的なリハビリの活用」をテーマに12月18日に開催予定 	<p>【大橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は年2回、会員向けの勉強会を実施したい。 	<p>大橋委員</p>
<p>・同行訪問研修は、医療機関を対象に、アンケートを実施し、6医療機関が同行、見学可と回答をもらっている。</p>	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同行訪問研修の実施に向けては、アンケート調査実施後、実際の取り組みに向けて、検討中である。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問先の同意、実施方法などを含めて、実施に向けて調整していく必要がある。 	<p>磯村委員</p>

(キ) 地域住民への普及啓発

(1) 市民向け講演会の実施 **新**

概要	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>在宅医療・在宅介護について地域住民に周知するため、年に1回程度、市民向けの講演会を開催する。</p>	<p>【江口委員】 ・今年度は、平成31年2月16日、まなび創造館あさひホールで開催予定。 ・小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター会議の中で、市民講演会の内容等の検討をしており、「認知症」をテーマにした寸劇を取り入れた講演会にする予定。</p>	<p>【江口委員】 ・市民講演会は、毎年度実施しており、来場者からは、好評を得ていることから、より多くの方に来場してもらうために、医療・介護関係者、市民に対する周知・啓発が課題である。</p>	<p>江口委員</p>

(2) 在宅医療・介護に関する普及啓発 **新**

概要	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>市民が必要な情報を得やすくするため、様々な媒体を活用し、分かりやすく在宅医療や介護について、普及啓発を行う。</p>	<p>【磯村委員】 ・9/15号広報こまきに掲載。 ・ケーブルテレビで市政情報として、周知。 ・小牧市社会福祉協議会のサロン巡回（モデル事業）に同行させていただき、啓発。 ・サポートセンターの啓発グッズ（クリップ）を作成し、今後、さまざまな機会を通じて、配布していく。</p>	<p>【磯村委員】 ・広報、ケーブルテレビなど、単発の周知では、啓発は不十分であると考え。 ・他市町では、定期的な会報誌などを作成している事例もあることから、普及啓発方法については、検討していく必要がある。</p>	<p>磯村委員</p>

(キ) 地域住民への普及啓発

(3) サロン等における在宅医療・介護に関する取り組み **新**

概要	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> ・サロンへの出前講座 平成 29 年度は、モデル的に2箇所、各3回コース（計6回）実施。 平成 30 年度の実施方法、内容等について、検討する必要がある。 	<p>【高木委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンへの歯科医、歯科衛生士派遣：3回依頼 	<p>【高木委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンが、午前中だけの開催地区もあり、ニーズに対応できる人材の確保が課題である。 	<p>高木委員</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年 5 月 23 日：総会の反省会とともに、会員及び訪問看護部会の看護師に“こまき山体操”を披露し、意見聴取。 ・膝腰スッキリ体操：6回 ・小牧市版介護予防リーダー養成研修、講師 ・介護教室（味岡） ・在宅医療・介護連携研修会：11月担当 ⇒ 若手の参加の捉え方 ・美姿勢 EX（一般向け） ・膝腰スッキリ体操：4回 ・寿学園にて講演 ⇒ 講座内容を若手に伝達 ・介護予防関係サロンへの出向：こまき山体操(メール) ⇒ 指導方法の確立 ・つどいの場立ち上げの手伝い ・こまき山体操の作成 ⇒ 各サロンの特性に合わせることが大切だが、難しい。他の健康体操等の違いをどのように表し、伝えるか課題である。医療機関従事者の参加を促す必要がある。 	<p>【大橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝腰スッキリ体操：前回の協議会以降、3回実施 今後、2回実施予定 ・こまき山体操：4回実施 ・こまき山体操の普及啓発に向けた教室が開催予定であり、市から依頼有 ・サロンへのリハビリ専門職の派遣：5回実施（同一サロンに2回派遣を含む） ・サロン立ち上げの手伝い（5回コース） 11月から1件で実施予定 	<p>【大橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の固定化が課題である。 ・伝えることが難しい。 	<p>大橋委員</p>

(キ) 地域住民への普及啓発

(4) わた史ノートの普及・啓発

概要	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>【江口委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わた史ノートの普及啓発に向けて、平成 30 年度より、市出前講座としてメニューに追加した。(2件の応募がきている) ・各地域包括支援センターの年間事業計画において、わた史ノートの普及啓発を掲げており、包括主催の講座を、年5回以上実施することを目標としている。 ・中学社会科副読本「小牧」については、教育委員会において、検討中で、10月頃に最終的な結論が出る見込みである。 	<p>【江口委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わた史ノートの出前講座は、3回開催。 ・地域包括支援センターが主催するわた史ノートの普及啓発は、6回開催。 ・中学社会科副読本「小牧」については、掲載されることが決定した。冊子については、来年度から配布され、活用される予定である。 	<p>【江口委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小牧市民病院の協力のもと、地域包括支援センターや小牧市在宅医療・介護連携サポートセンターを中心に、普及・啓発していく体制の充実を図る必要がある。 ・中学社会科副読本「小牧」の活用に併せて、福祉教育の充実に向け、検討する必要がある。 	<p>渡邊委員 尾崎委員 江口委員</p>
<p>【尾崎委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターでは、いつでも出前講座ができるように準備をしている。 ・また、今年度よりモデルで実施する「サロン巡回」において、啓発を行う予定である。 <p>⇒ 中学社会副読本に盛り込まれた際には、中学生にも実際に目に触れる機会があると良い。</p>	<p>【尾崎委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロン巡回時や民協等でも「わたしノート」の啓発を行っている。 ・各圏域の包括でも、少しずつ出前講座の依頼がきている。 ・エンディングノートとの異なる点を強調し、受講後は、今の自分の気持ちを分かってもらうことの大切さ、それについて話し合えるきっかけ作りに役立つこと、またこれからの過ごし方を改めて考え直してみる機会になっている様子。 ・今後は、出前講座の後に、振り返りの機会を設け、よりノートの使い方を充実させるものにしていきたい。 	<p>【尾崎委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各包括が行う出前講座の内容は、詳細まで統一がされていない。 ・各圏域の包括で、相互に方法等を確認したり学び合うことも、時には必要かと思われる。 	

(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

(1) サポートセンター連絡会議 **新**

概要	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>近隣市町のサポートセンターの連絡会議において、広域的な課題やニーズを整理するとともに、その解決に向けた検討を行う。</p>	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27～29 年度 3 年間継続してきた尾張北部医療圏「在宅医療・介護情報交換会」を 4 月から月 1 回継続開催している。 ・その状況を踏まえて、毎月実施しているサポートセンター会議で報告・連絡をしている。 ・また、市地域包括ケア推進課と定期的な連絡会議を開催することになった。(9月から開始) 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度になってから、各市町のサポートセンターの状況も変わりつつある。(例：訪問診療医師が施設に出向き、ケアマネジャーとの顔の見える関係づくりを行なっている。年度初めに市の広報に「出前講座」について掲載し依頼がきたら担当専門職に依頼する、災害について取り組みかたの検討等) ・連携シートの広域化など、広域的な視点の調整について、情報交換会に期待されているところであり、継続して協議していく必要がある。また、必要に応じて、提案等のために、行政の同席などを求めていく必要がある。 	<p>磯村委員</p>

(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

(2) 広域連携の推進 **新**

概要	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>広域的な課題などに関する情報の共有と、検討のきっかけづくりはできる。</p> <p>* 連携シートの統一化</p>	<p>【川合委員】</p> <p>・ 9月5日に開催した尾張北部医療圏域保健医療福祉推進会議の中で、「在宅医療・介護連携推進事業の各市町の取り組み」について議題にあげ、市町を超えて広域的に調整や検討が必要だと考える事項として共通しているのは①ICT を活用した情報共有の連携②入退院時の情報共有のための連携様式・ルールであるということ共有した。</p> <p>・ ICT について、広域連携の前に市町内での登録率がまだ低いという課題があがった。</p> <p>また、入退院の情報共有の様式やルールについて、江南保健所管内の市から、「尾北医師会地域ケア協力センター主導の退院時連携ワーキング部会で検討していたが、平常時の連携がまだ不十分であるため退院時の情報共有まで至っていない現状がある」という意見もあった。</p>	<p>【川合委員】</p> <p>・ 連携シートの統一を含めた尾張北部医療圏域での入退院の連携ルールを検討する際に、現在の、圏域内での入退院の連携（情報共有）状況や具体的に困っていること、問題点（実施率、連絡はあるが情報が足りない等）を把握、共有する必要があると考える。</p>	<p>川合委員</p>